様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：３２６２１
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2017～2021
課題番号：１６ＫＫ００３６

研究課題名（和文）複数帝国の連関史：環太平洋地域をつなぐグローバル・ネットワークと島嶼植民地支配（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）The History of Empires in the Asia-Pacific Region: Global Networks and Insular Territories (Fostering Joint International Research)

研究代表者
飯島　真里子（Iijima, Mariko）

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：１０４５３６１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　8,900,000円
渡航期間：　７ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究では製糖業やコーヒー産業などグローバルな商品作物に着目することによって、アメリカ準州ハワイで日本人が得た知識・技術・資本が、日本の熱帯植民地の農業政策や実践には欠かせない要素であることが明らかになった。さらに、カリブ海を中心とした大西洋の糖業に対抗する形で、ハワイを中心とした太平洋地域の糖業の連携が製糖関連企業・技術官僚等によって図られており、その連携は宗主国の勢力圏とは異なる地政学的構図を示すことが浮き彫りとなった。よって、本研究を通じて、太平洋地域の植民地史を検証するにあたり、複数帝国と植民地間の多方向的移動と重層的支配勢力の検討の重要性を実証的に示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義としては、これまで一帝国の一植民地に関する研究を中心に蓄積がなされてきた太平洋地域の歴史学研究に対して、複数帝国・植民地を結ぶ移動・連帯に関する実証的検証の重要性を提示したことである。つまり、背景が異なる多民族の移動の影響を強く受けた近代太平洋世界の検討にあたり、宗主国の直接的支配力のみならず、思想・技術・知識をもたらした多様な背景を持つ人々や植物の媒体的役割・間接的影響力に着目したことに意義がある。また、社会的意義としては、現在も世界中で消費される砂糖やコーヒーの歴史を明らかにすることで、今日まで続く産地ー消費地の経済・社会・人種的格差のルーツを提示できたことが挙げられる。

研究成果の概要（英文）：By focusing on global commodity crops such as the sugar and coffee industries, this research project reveals that the knowledge, technology, and capital acquired by Japanese migrants in the U.S. territory of Hawai'i are essential elements in making agricultural policy and practice in Japan's tropical colonies. Furthermore, this research revealed that the sugar-producing areas in the Pacific, centering on Hawai'i, were interconnected by sugar companies, technical bureaucrats, etc., in opposition to the Atlantic sugar industry. This linkage represents a geopolitical composition that differs from the suzerain power sphere. Thus, through this research, we were able to empirically demonstrate the importance of examining the multi-directional movement between multiple empires and colonies and the multilayered ruling forces in examining the colonial history of the Pacific region.

研究分野：歴史学

キーワード：環太平洋史　日本帝国　アメリカ帝国　ハワイ　台湾　製糖業　グローバル・ヒストリー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｆ－１９－２

１．研究開始当初の背景

本国際共同研究加速金（以下、国際共同）は、基課題（基盤研究（C）（一般）「環太平洋をめぐる商品作物のグローバル・ヒストリー：島嶼植民地の重層的支配の考察」H28-30）を基課題とし、実施された。基課題では、19 世紀後半から 20 世紀前半の環太平洋地域の人と商品作物の多方向的移動に着目し、その移動の目的地となった日本帝国支配・影響下の島嶼植民地の役割と支配構造について考察していたが、本国際共同では以下の 4 点が課題として浮かび上がってきたため、研究をさらに深化することとした。

(1)基課題では、同時代に環太平洋地域で活動していた欧米・日本帝国の絡み（対立、協調、競合等）を移動と島嶼植民地経験から検討することで、木畑（『大英帝国と帝国意識』、1998）のいう「帝国の比較史」ではなく、「帝国の連関史」の可能性を提示することを目的とした。本研究では、申請者が海外共同研究者チューリッヒ大学 Martin Dusinberre との共同研究を行い、そこにより欧州の研究者ネットワークに加わることによって、イギリス、スペイン、オランダ帝国研究者による複数帝国史の国際共同研究の基盤を整える必要性が生じた。

(2)本研究と関連が深いアジア・環太平洋を舞台とした帝国と島嶼植民地に関する研究では、日米帝国との関わりから小笠原諸島･硫黄島を検討した石原俊(『＜群島＞の歴史社会学』､2013）やイギリス帝国によるスリランカの島嶼植民地化の過程を論じた Sivasundaram（*Islanded: Britain, Sri Lanka & the Bounds of an Indian Ocean Colony*, 2013）などが挙げられる。これらの研究において、島嶼地域は、宗主国となった帝国のみならず、複数の帝国による影響下にあったことが主張される。本研究は以上に挙げた研究が提示する視点を援用するが、それらとの大きな違いは、実際に複数の島嶼植民地を研究対象とし、グローバル・ネットワークによって連結された島嶼地域の関係性にも注目していることにある。さらに、Dusinberre が強調する海の視点を加えることで、島嶼地域の持つ移動性・流動性を強調し、植民地研究が前提とした土地獲得による植民地支配を多角的に捉えることが必要となった。

(3)本研究が射程とするもう一つの研究分野である食のグローバル・ヒストリーでは、S.Mintz（*Sweetness and Power*, 1985）を筆頭に G.Okihiro, I.Cook 等は、商品作物をテーマとして、西欧帝国（消費地）とその植民地（生産地）の直接的・間接的な支配－従属関係を解明している。本研究では以上の視点を発展させ、人・モノ・知の「相互作用的移動」の視点を加えることにより、より広範囲で多方向におよぶ移動と複数帝国・植民地研究の関係性を明らかにすることで、商品作物以外の移動の視点を提示し、食のグローバル・ヒストリー研究における「移動」の解釈を多様化・複雑化する必要性が生じた。

(4)日本帝国・植民地研究の国際展開：(1)の達成は、基課題と本研究について欧州を拠点とする研究者に知ってもらう貴重な機会となる。日本帝国・植民地研究は国内では研究蓄積が非常に充実しているが、日本人研究者による海外発信は決して多いとは言えず、欧米諸国を拠点とする日本人研究者（E.Azuma, M. Tamanoi, J. Uchida, N. Shimazu 等）によって支えられているのが現状である。よって、本研究期間内に欧州で積極的に学術活動を行い、日本における帝国・植民地研究の最新動向について発表すると同時に、今後より大規模の国際共同研究を実現するための基盤を構築し、日本帝国・植民地研究の国際展開を行うことが必要と考えた。

２．研究の目的

(1)本研究では「海の視点」を導入し、航路を介したネットワークの生成や船舶の移動に焦点を当てた。それにより、基課題が前提としていた「帝国による土地侵略・支配の場としての島嶼植民地」を海・陸双方の複眼的な視点から考察する。それにより、①移動の多方向性とメカニズムをより多角的に理解し、新たに、②移動経験が集約された空間としての島嶼植民地の役割を解明することとした。

(2)「海の視点」の導入は、人、モノ（商品作物）、知（生産技術）の相互作用的な移動の考察も可能にする。これまでの日本人の移動をめぐる歴史学的研究は、「人」を主体にした実証例が圧倒的に多く、それに伴うモノや知の移動・移転についてはあまり注目されてこなかった。よって、本研究は、人・モノ・知の移動の総合的考察により、帝国の領域を越えて環太平洋地域を縦横無尽に繋いだグローバル・ネットワークの構築過程とその機能を実証的に解明することを目的とした。

(3)さらに、グローバル・ネットワークを検討したうえで、帝国による島嶼植民地支配とその影響を明らかにすること目指した。本研究の特徴は、一帝国の領域を越えたグローバル・ネットワークの存在に注目することで、複数の島嶼植民地における複数帝国の影響を考察することにあり、このような試みは国内外の研究蓄積をみても珍しい。本研究では、スイス調査期間中、日本帝国以外の帝国・植民地研究者との連携を活用し、研究対象地域の拡大を目指した。具体的には、砂糖、パイナップル、コーヒーの大規模生産を行っていたフィリピン（スペイン・アメリカ・日本帝国支配地）、オーストラリア（イギリス帝国の影響地）、ジャワ（オランダ帝国支配地）を研究対象地域に加えることとした。

(4)(3)を実行するにあたり、欧州を拠点にする歴史学者ネットワークの構築を目指した。Dusinberre はスイス・チューリッヒ大学、チューリッヒ工科大学及びドイツ・ハイデルベルグ大学の研究者が中心メンバーとなった共同研究の代表者であり、19・20 世紀の航路と人の移動に関する研究を行っている。そのメンバーには、オランダ・イギリス帝国の東南アジア支配も含まれているため、どう共同研究の研究会・シンポジウム等に参加し、欧州における帝国・植

民地史研究と海からみた移動研究に関する研究についての最新動向について学び、本研究内容に活用することを目的とした。

３．研究の方法

(1)一次史料収集：チューリッヒ大学図書館及び砂糖・コーヒーをはじめとする商品作物に関する世界中の文献を収集・所蔵している Johann Jacobs Museum（在チューリッヒ）を拠点として、西欧帝国と環太平洋地域の関わりに関する一次史料調査、収集、分析を行った。

(2)欧州開催の太平洋世界に関する歴史展示調査：2018 年には太平洋地域に航海した欧米人が持ち帰った民芸品や装飾品の展示（スイス、イギリス、ドイツ）を観察し、欧米における太平洋世界の歴史認識についての調査を行った。

(3)基課題の研究内容の発展：基課題において、申請者は環太平洋地域を舞台とした砂糖とコーヒーの商品作物の移動（生産技術・構造の移転、日本人生産者の移動、産地・消費地の経路形成過程）を検討している。本研究では、研究対象地域を拡大するため、その検討にあたり、スイス調査中は西欧帝国・植民地研究を専門とする研究者からの助言を求めた。また、航路の開拓、人と船舶の移動を専門とする Dusinberre には、産地－消費地を結ぶ航路、貿易の中継地としての島嶼植民地の役割に関する専門知識を提供してもらった。

(4)欧州を拠点にする歴史学者ネットワークの構築：現在、Disunberre が研究代表を務める研究企画を通じて、スイス・チューリッヒ大学、チューリッヒ工科大学及びドイツ・ハイデルベルグ大学の研究者との意見交換を行った。

４．研究成果

本研究は、環太平洋地域における商品作物の技術移転と流通の考察を通じて、島嶼植民地に対する複数帝国（欧米、日本）の植民地支配の重層的影響力を検討することを目的とした。これまで、一帝国の一植民地に関する研究は多くあったが、本研究では製糖業やコーヒー産業などグローバルな商品作物に着目することによって、以下のことが明らかとなった。

(1)複数帝国・植民地の折り重なる力学：アメリカ準州ハワイにおいて、日本人が獲得した知識・技術・資本が、日本の熱帯植民地（台湾や南洋群島）の植民地農業政策や実践には欠かせない要素となったことかが明らかとなり、太平洋地域の植民地史を複数帝国と植民地の関わりから見ていく重要性が浮き彫りとなった。

(2)太平洋島嶼植民地の横断的繋がり：カリブ海を中心とした大西 洋の糖業に対抗する形で、ハワイを中心とした太平洋地域の糖業の連携が製糖関連企業・技術官僚等によって図られており、その連携は宗主国の勢力圏とは異なる地政学的構図を提示することが明らかとなった。よって、本研究は 19-20 世紀に欧米・日本帝国によって分割された太平洋世界の歴史的検証において、複数 帝国の視点のみならず、植民地間を繋ぐ知識・技術・資本に着目することの重要性を実証することができた。

(3)太平洋世界展示を通じた歴史認識の差異：一方で、2018―19 年度にかけて開催された太平洋世界に関する歴史展示を欧州と日本と比較検討した際、その内容は大きく異なることが明らかとなった。欧州の展示に関しては 19 世紀の欧州航海者が持ち帰った獲得品（民芸品や装飾品）が中心であるのに対し、日本に関しては日本人労働移民の経験に基づいた歴史展示が実施されていた。よって、(1)の結果とは対照的に、太平洋世界に関する現在の歴史認識は国や地域によって細分化され、個別に発展していることがわかった。しかし、今回は現状認識にとどまったため、次回の研究企画において研究を進めていくこととした。

(4)日本帝国史・太平洋史研究の日欧での成果発表：本研究は、欧州ではチューリッヒ大学での国際研究会開催(2018)とドイツの人文系ジャーナル *Historische Anthropologie* 特集号での査読付き論文へ投稿（2019）、日本では上智大学での国際シンポジウム開催（2018）、日本農業史学会でのシンポジウム開催（2020 年）及び『農業史研究』特集号への査読付き論文への投稿）（2021）を行った。日欧両地域において本研究成果を積極的に発信することで、太平洋地域をめぐる歴史学の国際共同研究を実践することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 飯島真里子	４．巻 55
２．論文標題 二つの帝国と近代糖業ーハワイと台湾をつなぐ移動者たち	５．発行年 2021年
３．雑誌名 農業史研究	６．最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 マーティン・デューゼンベリ	４．巻 55
２．論文標題 「Industrious」な労働者たち ーグローバル・ヒストリーからみた初期ハワイ日本人移民	５．発行年 2021年
３．雑誌名 農業史研究	６．最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯島真里子	４．巻 42
２．論文標題 Who Else Will Harvest the Coffee? 1990年代以降のハワイ島コナ・コーヒー産業と中南米系移民	５．発行年 2020年
３．雑誌名 イベロアメリカ研究	６．最初と最後の頁 73-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Mariko Iijima	４．巻 -
２．論文標題 'Nonwhiteness' in Nineteenth-century Hawai'i: Sovereignty, White Settlers, and Japanese Migrants	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Ethnic and Migration Studies	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1369183X.2020.1774115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Iijima, Mariko	4．巻 27-3
2．論文標題 Sugar Islands in the Pacific in the Early Twentieth Century: Taiwan as a Protege of Hawai‘i	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Historische Anthropologie	6．最初と最後の頁 361-381
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7788/hian.2019.27.3.361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Dusinbere, Martin and Iijima, Mariko	4．巻 27-3
2．論文標題 Editorial: Transplantation: Sugar and Imperial Practice in Japan’s Pacific	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Historische Anthropologie	6．最初と最後の頁 325-335
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7788/hian.2019.27.3.325	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Iijima, Mariko	4．巻 -
2．論文標題 Japanese Diasporas and Coffee Production	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The Oxford Research Encyclopaedia of Asian History	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/acrefore/9780190277727.013.372	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Mariko Iijima	4．巻 32
2．論文標題 Coffee Production in the Asia-Pacific Region: The Establishment of a Japanese Diasporic Network in the Early 20th Century,	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of International Economic Studies	6．最初と最後の頁 75-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　1件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 飯島真里子
2．発表標題 二つの帝国と近代糖業ーハワイと台湾をつなぐ移動者たち
3．学会等名 日本農業史学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 マーティン・デューゼンベリ
2．発表標題 「我が身はどこへ流るやら」―グローバル・ヒストリーの視点からみたハワイに初めて渡った日本人移民の労働構成
3．学会等名 日本農業史学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 Iijima, Mariko
2．発表標題 Collaborating Colonies: Sugar Industry and Migrants in Japan’s Pacific
3．学会等名 Competing Imperialisms in North East Asia（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 飯島真里子
2．発表標題 アジア太平洋をめぐる砂糖ネットワークー20 世紀前半のハワイ― 台湾連関史
3．学会等名 日本移民学会第29回年次大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 飯島真里子
２．発表標題 商品作物をめぐる植民地主義ーー日本帝国、移民、グローバル・ヒストリー
３．学会等名 帝国とグローバライゼーションーー社会生態史的アプローチ（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 飯島真里子
２．発表標題 Sugar Islands in the Pacific in the Early 20th Century: Taiwan as a Protege of Hawaii
３．学会等名 Sophia Symposium: Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants, Womanhood
４．発表年 2018年

１．発表者名 飯島真里子
２．発表標題 Coffee Production in the Asia-Pacific: The Circulation of Japanese People, Plants and Production Skills before WWII
３．学会等名 The Organization of American Historians Annual Conference
４．発表年 2018年

１．発表者名 Mariko Iijima
２．発表標題 Coffee Web: Remapping the Movements of People and objects and knowledge across Asia-Pacific Region
３．学会等名 Bodies and Structures: Deep-Mapping the Spaces of Japanese History（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Mariko Iijima
２．発表標題 Connecting Japanese Diasporas in the Asia-Pacific: Movements of People, Agricultural Commodities, and Production Skills from Hawai‘i to Taiwan
３．学会等名 Japanese Diaspora Initiative Workshop, Hoover Institution（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

１．著者名 小塩和人、増井志津代、石井紀子、伊達聖伸、水谷裕佳、出口真紀子、前嶋和弘、谷洋之、小川公代、飯島真里子、ケネス・G・オキモト、飯野友幸	４．発行年 2019年
２．出版社 上智大学出版	５．総ページ数 332
３．書名 北米研究入門 ２ ―「ナショナル」と向き合う	

１．著者名 飯島真里子、内村俊太、高橋暁生、米山かおる、岩崎えり奈、野澤丈二、杉浦未樹、石井紀子、佐々木一惠、矢澤達宏、小塩和人	４．発行年 2018年
２．出版社 上智大学出版	５．総ページ数 332
３．書名 グローバル・ヒストリーズー「ナショナル」を越えて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Mariko Iijima
marikosiijima.jp

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	デューゼンベリ　マーティン (Dusinberre Martin)	チューリッヒ大学・歴史学部・教授	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Sophia Symposium: Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants, Womanhood	2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	チューリッヒ大学歴史学部			